

臨床評価指標について

○全国自治体病院協議会指標を参考に計算したデータです。

No.	指標	令和6年（2024年度）												指標の説明
		4月～6月			7月～9月			10月～12月			2025年1月～3月			
		分子	分母	割合	分子	分母	割合	分子	分母	割合	分子	分母	割合	
1	紹介率	5,222	6,564	79.6%	7,252	5,597	77.2%	6,236	7,814	79.8%	5,548	6,902	80.4%	数値が高い場合には、直接初診する患者さんより地域医療機関等からの紹介や救急来院が目立つことを示しています。 分子：紹介患者数+初診救急患者数 分母：初診患者数
2	逆紹介率	4,416	6,564	67.3%	7,252	4,578	63.1%	4,909	7,814	62.8%	5,425	6,902	78.6%	地域の医療機関との役割分担で地域住民の健康を担っています。かかりつけ医との連携関係が強いと率は高くなります。初診患者数が多いと率は低くなります。 分子：逆紹介患者数 分母：初診患者数
3	新入院患者紹介率	1,165	2,636	44.2%	2,805	1,182	42.1%	1,230	2,785	44.2%	1,261	2,677	47.1%	かかりつけ医との役割分担で自治体病院が担う機能の一つが入院医療です。かかりつけ医で対応困難な検査や治療を必要とする患者さんを自治体病院が紹介を受けて入院となります。割合が高いほどかかりつけ医等からの紹介を受けていることになります。 分子：新入院患者中の紹介患者数 分母：新入院患者数
4	在宅復帰率	2,434	2,539	95.9%	2,695	2,562	95.1%	2,601	2,732	95.2%	2,410	2,529	95.3%	治療が一段落し、自宅などへ退院することが多い場合には、率が上昇します。急性期医療を主に担っている病院の場合には、リハビリ等を専門の病院に転院して、より身体機能を安定させてから退院する場合があります。このような場合には率が低くなります。 分子：退院先が自宅等の患者数 分母：生存患者数
5	地域医療機関サポート率	231	475	48.6%	475	244	51.4%	253	475	95.2%	246	476	51.7%	自治体病院は地域の医療機関（かかりつけ医）と連携し、住民の医療を支えています。かかりつけ医が診療し、その結果、病院での診療が望ましい場合には病院への紹介となります。地域の多くの医療機関との連携を図っている場合には数値が高くなります。 分子：二次医療圏で紹介を受けた内科医療機関数 分母：二次医療圏内内科医療機関数
6	地域分焼貢献率	103	1,104	9.3%	1,192	113	9.5%	102	1,108	9.2%	88	1,122	7.8%	政令指定都市などの大規模な二次医療圏では、出生率そのものが多いので、率は低くなります。大都市に隣接した市町村で地域密着の強い病院でも率は低くなります。 分子：院内出生率 分母：二次医療圏出生数
7	地域救急貢献率	1,114	9,591	11.6%	11,129	1,268	11.4%	1,356	10,884	12.5%	1,240	10,868	11.4%	政令指定都市などの大規模な二次医療圏では、医療機関数そのものが多いので、率は低くなります。大都市に隣接した市町村で地域密着の強い病院でも率は低くなります。 分子：救急車来院患者数 分母：二次医療圏内救急車搬送人数
8	転倒・転落発生率	2	209	0.0095%	25,776	35	0.00136%	29	25,465	0.00114%	44	25,929	0.00170%	認知症があったり、病気の影響で意識が混濁したりしている場合には、ご自分のまわりのことが認識できず、あるいは、体のバランスを崩したりして、転倒したり、ベッドから転倒したりします。このような患者さんが多い病院では率が高くなる場合があります。 分子：入院患者転倒・転落レベル2以上該当件数 分母：入院延べ日数
9	褥瘡推定発生率				284	2	0.007042%	1	250	0.004%	3	229	0.0131%	低栄養の患者さんや一定の体の向きしか取れない場合には褥瘡が出来やすいので、このような患者さんが多い場合には率が高くなる場合があります。 分子：入院時に褥瘡なく調査日に褥瘡を保有する患者数+入院時に褥瘡あり他部位に新規褥瘡発生の患者数 分母：調査日の施設在院数
10	クリニカルパス使用率 (患者数)	1,383	2,636	52.5%	2,805	1,546	55.1%	1,627	2,785	58.4%	1,646	2,677	61.5%	主に診療に先立って計画が行われるため、患者さんは事前の説明が受けやすくなります。しかし、まれな疾患や病状などではあらかじめ計画を立てることが出来ないためパスを利用しことが困難です。このような疾患を多く診療している医療機関は使用率が低くなる場合があります。また、重症患者さんが多い病院の症状が一定でないため使用率が低くなる場合があります。 分子：パス新規適用患者数 分母：新入院患者数
11	クリニカルパス使用率 (日数)	10,012	23,467	42.7%	25,776	11,226	43.6%	10,866	25,465	42.7%	10,891	25,929	42.0%	主に診療に先立って計画が行われるため、患者さんは事前の説明が受けやすくなります。しかし、まれな疾患や病状などではあらかじめ計画を立てることが出来ないためパスを利用しことが困難です。このような疾患を多く診療している医療機関は使用率が低くなる場合があります。また、重症患者さんが多い病院の症状が一定でないため使用率が低くなる場合があります。 分子：パス摘要日数合計 分母：入院延べ日数
12	大腿骨地域連携パスの使用率	0	19	0.0%	0	12	0.0%	0	32	0.0%	0	30	0.0%	近隣にリハビリテーションを専門に行っている病院があり、連携が強化されている可能性があります。手術を担当した病院が、リハビリテーション終了まで一貫して診療を行っている病院の場合には指標値がゼロ、又は、率が低くなります。 分子：大腿骨頸部骨折「地域連携診療計画管理料」症例数 分母：大腿骨頸部骨折【大腿骨頸部骨折骨接合術、大腿骨頸部骨折人工骨頭置換術頭を実施】退院症例数
13	院内他科入院精神科受診率	51	4	12.7%	42	4	10.5%	49	4.01	12.2%	51	4.01	12.7%	生活習慣病やがんなど身体疾患で入院していても、精神的な問題を抱えていたりすることがあります。状況により主治医が対応したり、精神科の専門的な対応が必要な場合には紹介により精神科医師が対応します。患者さんを多角的に診療していることとなります。 精神科が全ての病院にあるわけではないので、非常勤医師などに対応する場合があります。このような場合には率が低くなります。 分子：院内他科入院中患者の精神科診察依頼件数 分母：病床100床あたり
	入院患者満足度										51	52	98.1%	分子：満足のいく診療を受けたと回答した入院患者数 分母：患者満足度の有効回答数（入院）
	外来満足度										733	780	94.0%	分子：満足のいく診療を受けたと回答した外来患者数 分母：患者満足度の有効回答数（外来）